「かぐやひめ」

どんなおはなし？

“ 竹から生まれた小さな女の子 ”

「かぐやひめ」

日本の昔話

むかし、竹取（たけとり）のおきなというおじいさんがいました。ある日、おじいさんが竹をとりにいくと、一本だけひかる竹を見つけます。ふしぎにおもってその竹をきってみると、中に小さなおんなのこがいました。おじいさんとおばあさんは、その子を「かぐやひめ」となづけてたいせつにそだてました。

やがて、かぐやひめは、かがやくばかりにうつしいむすめになりました。すると、そのうわさをききつけた５人のわかものが、かぐやひめにけっこんをもうしこみますが、かぐやひめはだれともけっこんしようとしません。しんぱいするおじいいさんに、かぐやひめは「わたしは月にかえらなくてはなりません」とつたえ･･･。

出演者

早見（はやみ） あかり さん

かぐやひめをえんじるのは、映画（えいが）やドラマでかつやくするはいゆうの早見（はやみ）あかりさん。おじいさんや５人のわかものの役（やく）も、ひょうじょうゆたかにえんじわけます。でんきがなかった時代（じだい）、まっくらな夜（よる）にかがやくまんげつのあかりをそうぞうしながら、みてください。

番組イラスト／「読んでみよう！」イラスト制作

イラストレーター
中井 智子（なかい ともこ）